フルクラウド型のリモートプロダクションで広範囲・長時間のトライアスロン大会を生中継。



株式会社中海テレビ放送 様
「全日本トライアスロン皆生大会」

導入地域：山陰
導入時期：2026年7月

課題

6市町村にまたがる大規模なトライアスロン大会の生中継を、省力化しながら円滑に行いたい

解決策

KAIROSクラウドソリューションにより、各地からのカメラ映像をクラウドに集約した完全リモートでの番組制作を実現

“来年の大会でもKAIROSクラウドを活用したい、という声が社内から上がっています。”

株式会社中海テレビ放送
メディア創造本部 報道制作部 制作課
課長 小林 洋介 様

※所属は納入時のものです。

背景

総距離約180km、14時間半におよぶ大会を生中継

スイム・バイク・ランの3種目で総距離約180kmを駆け抜ける全日本トライアスロン皆生大会。朝7時のスタートから夜9時30分の競技終了まで、約1,000名の選手が自らの限界に挑みます。中海テレビ放送様では、皆生大会の生中継を20年以上にわたり実施しており、昨年からは県外のファンにも届けようと、自局のコミュニティチャンネルに加えてYouTubeでのフルライブ配信も行っています。その2つの媒体に向けた効率的な番組制作を実現するため、今年はフルクラウド型の制作体制に挑戦。コース各所のカメラ映像をクラウドへ集約し、スイッチングから編集、配信までをクラウド上で完結できる制作環境を構築しました。

導入した理由

リモートでも高品質で安定した配信が可能

皆生大会では、競技の進行にあわせて中継班も移動しながら常時4～5か所で撮影が行われます。中海テレビ放送の小林様は、「昨年はスマートフォンで撮影してクラウドに上げる方式と、主要拠点は中継車を活用したベースバンド方式という混在運用で制作していましたが、伝送の不安定さや映像品質の面で課題がありました。その後KAIROSクラウドの存在を知り、次の大会でぜひ使用したいと考えていました。高画質で高倍率ズームが可能な業務用カメラで撮影ができ、それらを安定して扱えるKAIROSクラウドはリモートプロダクションを実現するシステムでした」と語ります。

地域密着の番組制作で興奮と感動を届ける

鳥取県米子市を拠点に、8つの市町村を放送エリアとするケーブルテレビ局、株式会社中海テレビ放送様。全日本トライアスロン皆生大会では、ゴールする約1,000名の選手のプロフィールを紹介する心のこもった中継を行い、多くの人々に愛されています。

■ 所在地：鳥取県米子市河崎610
■ URL：https://www.chukai.co.jp


▲ 株式会社中海テレビ放送様の本社



▲ 皆生大会のコースマップ（丸印が撮影地点）

エンターテインメント

KAIROSクラウドソリューション



▲ 中海テレビ放送様内に仮設された中継用サブでスイッチングしている様子



▲ EDIUSオプションを活用し、大会進行と並行してハイライト映像を制作



▲ KAIROSクラウドソリューションのコントロールパネル、マルチビュー、PCソフトのKairos Creator



▲ Kairos Creatorでテロップ（右）とオーディオミキサー（左）を操作している様子

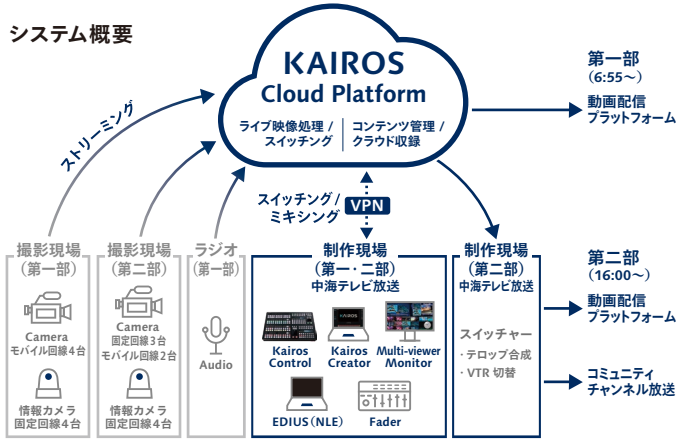


▲ 各地点を移動しながら撮影している中海テレビ放送様の中継班



▲ 2026年3月には新社屋にオンプレミス版のKAIROSも導入し、日々の放送で活用中

システム概要



お客様の声

来年も、KAIROSクラウドで新たな挑戦を

「今回、初のフルリモートプロダクションに挑戦し、大きなトラブルもなく安定した運用ができましたので、来年もぜひKAIROSクラウドを活用したいと社内で話しています。さらに今後はKAIROSクラウドの入力数を最大限活かし、もっとカメラ台数を増やしてお届けしていけたら嬉しいですね。長い歴史を持つ皆生大会は、30年以上にわたって参加されている方もいるほど、選手はもちろん、スタッフやボランティアの皆さんの強い思いを背負っています。そんな大会を確実に届けることにプレッシャーもありますが、KAIROSクラウドなら安心して番組の内容を充実させることができますので、来年もまた新たなチャレンジができたら嬉しいです」



株式会社中海テレビ放送
メディア創造本部 報道制作部 制作課
課長 **小林 洋介** 様
※所属は納入時のものです。

導入後の効果

運用効率の向上により、人員配置を適正化

全社総動員で実施した大会生中継は、約14時間半、交代でスイッチングが行われました。小林様は、「今回の中継には“社員全員が放送局員である”、つまり緊急時に誰もが地域の皆さまへ情報発信できるようになる、という裏テーマを設けました。このため、スイッチャーのオペレーターには総務部門の社員も動員しましたが、KAIROSクラウドは直感的で分かりやすく、コントロールパネルも各ボタンの上にカメラ名称を表示させられるためミスなくオペレートができました。また、フルリモートにできたことで各中継先に配置する人員を削減できたことは大きなメリットでした。削減した人員を別の業務に振り分けることができ、さらにKAIROSクラウドは準備や片付けも楽なので、昨年よりも確実に効率化を図れました」と語ります。

“ケーブルテレビ局にこそマッチするシステム”

「本来、中継車を出してベースバンドで運用しなければならない大規模な番組制作が、KAIROSクラウドなら完全リモートで実施可能です。ケーブルテレビ局は自局でインターネット回線を用意できるためリモートプロダクションに適していますし、KAIROSクラウドの安定性や操作性は、人員不足に悩む私たちのような放送局に非常にマッチしていると思います。クラウドに上げてしまえば日本中どこからでも中継映像を入手できるので、例えば全国のケーブルテレビ局が導入したら、県を越えたさらに広範囲な生中継も実現できるはずです」

納入機器

KAIROSクラウドソリューション

貸し出しオプション

- コントロールパネル Kairos Control **AT-KC10C2G** ×1
- Kairos Creator PCセット ×1
- クラウド映像編集システム EDIUS（グラスバレー製）×1

Panasonic CONNECT

納入会社：山陰パナソニック株式会社

発行：パナソニック コネクト株式会社
〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号　汐留浜離宮ビル

その他の納入事例に関しては、ホームページをご覧ください。

https://connect.panasonic.com/jp-ja/

2026.09.UN
SJJ-JJ4B2601-U2